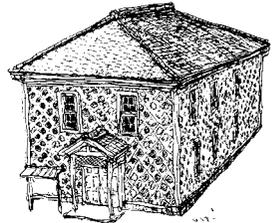


## 演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、デベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875(明治8)年に開館した日本最初の演説会堂です。

●塾長 長谷山 彰

# 伝統を守り進化する慶應義塾

今年、オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。義塾は過去のべ130人を超える選手を輩出し、1920(大正9)年のアントワープ大会ではテニスの熊谷一弥選手が日本のメダル獲得第1号となりました。1964年の東京オリンピックに馬術で出場した法華津寛(はなかつひろ)選手は、今回79歳、史上最年長での出場をめざしています。

1868(慶応4||明治元)年の『慶應義塾之記』には「木のぼり、玉遊等『ジムナスチック』の法に従ひ、勉て身軀を運動すべし」とありました。その意図は、心身のバランスを重視した全人格的教育にあります。官尊民卑の風潮の中で、福澤諭吉はあえて、多くの門下生を産業界に送り出しました。財界の慶應は健在で、2013年Times Higher Education (THE)の世界的な企業のCEO輩出数で義塾は世界第9位の評価を受けました。ほかにも公認会計士試験合格者数44年間連続日本一、司法試験では、2013年に合格者数、合格率ともに第1位を達成し、医師国家試験でも高い合格率を誇っています。幅広い人材の育成を続けてきた結果です。

研究では、人文学の伝統に加えて、超高齢化社会を見据えた

ライフサイエンスやAI、IoT、ロボティクスなどの先端研究も進み、2019年、国連の持続可能な開発目標SDGs達成への貢献度を測るTHEの大学インパクトランキングで、義塾は東京大学、京都大学と並んで総合ランキング100位以内(91位)に入りました。

テクノロジーの進歩、地球環境の変化など、未来社会は私たちの予想をはるかに超えたものとなるでしょう。想定外の事態に対処するために強い精神力と豊かな創造力、人間関係を創る力が必要になります。慶應義塾は一貫教育校・大学を通じて変化の時代を生き抜く独立自尊の人材育成をめざしています。2020年、三田ではアナログとデジタルのコンテンツが融合した新しい博物館(Keio Museum Commons (KeMCo))が竣工し、また図書館旧館内にも、義塾の歴史を伝える展示施設がオープンします。日吉では式典や大勢の卒業生が集う連合三田大会の場となる新日吉記念館が竣工します。

良い大学とは、良い学生、良い教員、良い卒業生の揃った大学です。2020年も義塾社中の皆様と共に慶應義塾の発展をめざして力を尽くしてまいります。